



せいしょ きせき ものがたり  
聖書の 奇跡の 物語：

## バラムの ロバが しゃべる

みんすう き だい しょう せつ  
(民数記 第22章 21-31節)

バラムはモアブの王様に、砂漠を渡ってモアブの方へ向かって来るイスラエルの人々に対し、いつわりの預言をしてのろってほしいと頼まれていました。けれども神様は、イスラエルは祝福された民なのでのろってはならないとバラムに告げました。

けれども翌朝になると、バラムはロバにくらを乗せ、モアブの高官たちと一緒に、イスラエルをのろうために出かけて行くことにしました。

神様は、彼らと一緒に出かけて行ったことでバラムにいかりを寄せられました。それで主の天使が道のとちゅうに立ち、バラムを行かせまいとしました。ロバはつるぎをぬいた天使を見て、道からそれて畑に入ってしまった。バラムには天使が見えなかったため、ロバを打って道にもどそうとしました。

その後、天使は道の両側に石がきのある道に立ちはだかりました。ロバは天使を見ると、石がきにすり寄ったので、バラムの足も石がきにぶつかりました。それで、バラムはまたロバを打ちました。

今度は天使はもう少し先に行って、右にも左にもそれることができないほど細い道に立ちはだかりました。ロバは天使を見ると、うずくまってしまいました。バラムは、またもやロバを打ちました。

すると、神様はロバの口を開かれたので、ロバが言いました。「わたしがあなたに何をしたのですか？ あなたはわたしを3度も打ちました。」

その時、主はバラムの目を開かれました。バラムは、つるぎをぬいた天使が道に立っているのを見ると、地面にうつぶせになってひれふしました。

さいしゅうてきに、バラムは神様に従って、イスラエルを祝福したのでした。(民数記の第23章を読んでね。)

